

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢あす通四丁目8番地15		
自己評価作成日	令和3年12月24日	評価結果市町村受理日	令和4年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・御利用者様の笑顔が育つことが認知症ケアの本質としております。
- ・認知症や加齢に対する葛藤や鬱を支えて、心の安定を徐々に自然に導くことを目指しております。
- ・共同生活でつくられる絆、役割がある喜びを継続できる環境がグループホームと考えております。
- ・見えない気持ちを量ることができるのも少人数のグループホームの特徴であると考えます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR前沢駅や前沢総合支所へ徒歩15分程度の新興住宅地にある1ユニットのグループホームである。周辺にはコンビニエンスストアやドラッグストア、図書館や文化会館、保育園や養護学校もあり、国道4号線沿いには多数の飲食店が並び、コロナ禍以前には利用者の希望に沿った外出支援が出来ていた。地元自治会との関係は良好で、事業所の敷地をリサイクル収集所(アル缶缶等)として提供し、地域住民が自由に出入りしている。毎年の自治会総会には管理者が出席し、地元防災組織と協働での避難訓練では、自治会長の他、隣家の住民も参加し、利用者の避難誘導と見守り役を担っていただいている。自治会と協働開催の秋祭りには、これまで老若男女の他、前沢高校のボランティアも参加し盛大に開催していた。入居直後の利用者には、協力歯科医師による歯科健診を実施し、口腔ケアにも留意している。今後は、恵まれた社会資源を更に活かしていける人員体制の強化を期待する。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を事業所理念として朝礼で唱和している。職員の勉強会でも多くのことが最終的に理念に繋がっていることを理解している。	ホール内の利用者からも見える位置に、大きな文字で理念を掲示し、職員と利用者が一緒に、午前10時からの引継ぎ時に唱和している。管理者は、新規職員オリエンテーションで理念について説明をしている他、日常的に職員への理念の浸透を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災会のボランティア活動であるアルミ・スチール缶集めの集積場として、当ホームの駐車場の一角を使用している。管理者は地域防災会を初め多くの方と日常的に交流している。	自治会に加入し、コロナ禍前は管理者が総会に出席していた。回覧板回しは、利用者と職員が一緒に行っている。集積場にきた子供たちに、利用者が窓越しに手を振っている様子がみられる。地元の防災組織との関係も良好で、定期的な避難訓練には役員、隣家の住民も参加している。コロナ禍前には、保育園からの招待や、秋祭りでの高校生ボランティアとの交流機会が毎年あった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は運営推進会議内で地区民生委員様や自治会長様と地域の高齢者支援の話をし、必要に応じて会議内で勉強会をしていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の気分転換として地域の寄り合いに呼んでいただいたり、旧知の友人との再会を民生委員が繋いでくれたりとサービス向上に協力いただくこともある。	コロナ禍の今年度は書面会議とし、委員に会議資料を送付し、求めた意見は次回会議資料にまとめ報告している。管理者の他に、職員も参加した時期もあった。委員からの情報提供により、地元の公民館活動や婦人会の集いに利用者も参加した。コロナ禍の面会制限下、ご家族にも会議資料を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のグループホーム入居後に伴い、それまでの二人暮らしから、独居となった御家族様への福祉サービスの検討について連携会議を開催していただいた件がある。	運営推進会議委員として、前沢総合支所の市民福祉グループ長が参加している。生活保護の受給者は3名いる。管理者は、実務レベルの行政担当者や地域包括支援センターとの連携の必要性を認識している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護として身体拘束は有り得ないことという認識を持っており、行動制限に対しても夜間のみ防犯上の理由で玄関施錠をおこなっているが、以外は同じく有り得ないことという認識で全職員がいる。	事業所では、これまで身体拘束を行った事例はなく、無断外出も10数年前に1度あったのみであった。身体的拘束適正化委員会は、職員が委員として3ヵ月毎に開催し、職員研修は虐待防止も含めた内容で年3回は行っている。スピーチロックについては、気づいた都度注意喚起を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様にあり得ないことと共有している。勉強会では得にもネグレクトや心理的虐待について理解を継続して深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者、また利用予定者様に対象が有った際は速やかに関係機関と連携をとらせていただく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了時及び、契約終了となる可能性が出てきた際は必ず内容確認および相談をおこなう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見や質問を表出しやすい環境づくり、距離感ゼロを心がけている。御家族様からも意見表出に遠慮がないように、サービス計画に対する質問など文書でお願いしている。また玄関には質問箱を設置している。	ご家族から率直な意見や要望が出ることは少なく、コロナ禍で面会制限下、介護計画の見直し時期に、書面を送付し、介護計画への希望を確認する他、事業所運営への意見や要望を確認している。意見、要望ではないが、2家族より定期的に野菜の差入れがあり、調理に利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護業務に入って職員の意見、提案を常に聴きルーチン作業の効率化など即反映されている。	職員会議時よりも、日々の介護業務中での会話や雑談の中で意見交換が行われ、提案が出される事が圧倒的に多い。早番や日勤等の業務を行いながら、業務内容変更等の意見が出され、見直しや変更を行っている。管理者から本部への体制強化の要望は、常態化している。	

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成前には休日などの勤務希望を募っている。毎月の事業所行事は介護職が主導で行なう。また状況に応じた待遇改善を図るなど仕事への意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を定期的で開催している。加えてコミュニケーション技法などは働きながらトレーニングしている。経験量に応じて任かせる内容を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社運営のグループホームが他に3箇所あり情報交換や相互訪問をし、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から情報収集に努め、困っていること、求めていることを把握。職員間で共有し、サービス開始時から個に応じた関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、契約前から可能な限り情報収集に努めている。入居後に徐々に表出してくることも多いため、管理者は臨機応変な対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請時の御話のなかで、家族の介護実情を把握し、ホームに空きが出るまでの繋ぎとして他介護サービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務時間内の食事は利用者様と同席する。食事の準備、片付けや洗濯物干しや畳み方は利用者様と職員の共同作業となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族状況に合わせて相談のうえ行政への申請書類や定期通院を担っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の友人等の面会も受け入れている。利用者様の中には地域共催の祭りをきっかけに数年ぶりに交流を再開する友人もいらっしゃる。	コロナ禍以前には、家族、親戚、職場の同僚、教え子等の知人のほか、4、5人の友人がまとまって来所し、面会することもあった。また、民生委員の口添えて、旧友の来所もあった。外出もままならない中、定期的なかかりつけ医への受診と床屋が馴染みの継続となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然発生的に助け合い、関わりができる環境が維持されており、それに向けた支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に長期入院することでの契約終了が殆どであり、入院後の洗濯支援や急性医療期間から療養型医療機関への転院などの際には必要に応じて協力や相談をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や表情から希望、意向が汲み取れるよう努めている。リスクを検討しつつ本人本位を優先している。	やりとりの工夫が必要な利用者は半数を超えているものの、ほぼ利用者の思いや意向の把握は出来ている。就寝前の居室内や入浴時に寄り添ったお世話をすると、本音が確認出来る場面もある。昨年の暮れ、新規入居者が年賀状書きを口に出した事をきっかけに、全員が家族宛に年賀状を送付したところ、家族から喜ばれ大変好評だったとする。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から家族様や市町村、利用されている介護サービス事業所から情報収集をしている。入居後も失礼にならないければ、面会の友人等から生活歴の把握をさせていただくこともある。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	談話内容や表情、声量や動作の速度等こまかい情報も収集するよう努めている。入居サービスにて24時間の流れ、季節変わり目の変化も把握しやすい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員にて定期的にサービス結果のモニタリング及び御本人の意向を再確認している。その後のあらたな計画立案後は家族様にて意見を記入いただく体制をとっている。	居室担当制はとっておらず、介護職員が記録しているケース記録等を参考に、介護支援専門員がモニタリングをしている。介護計画見直し時期には、原案作成前に、書面で家族の意向確認や見直し希望等を確認している。確定した計画書は、全職員が確認後押印し、サービス内容については、ホール内のスタッフルームで確認出来る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、または目的別に複数の記載項目を設けて毎日取り組んでいる。情報共有及び介護計画等に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の性格や特技に合わせて多種多様な余暇援助を工夫している。個々のニーズにも柔軟に対応できるよう業務形態を工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地に恵まれ、地域からの協力が厚い。個々のニーズに合わせて地域行事に出向くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と関係づくりができており、必要に応じた処方薬調整を相談している。歯科は往診治療をしている。	利用者全員が、入居後も主治医を変更することなく、入居前のかかりつけ医を受診している。コロナ禍以前より、受診の付添いは、殆どの利用者が事業所職員の付き添いで受診しており、家庭事情で受診同行が出来ない家族の一助となっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、または事業所の協力病院の看護師との関係づくりができており、細かな相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	周辺病院との関係づくりは成されている。入院中の訪問や必要に応じた病院関係者との面接にて情報や協力をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時および必要に応じて家族等と相談をし、方針を共有している。また、いざ重度化した場合は医療機関とも相談し、可能な限り、より良い方法をその都度に検討している。	利用者の状態低下に伴い、事業所として重度化への対応が困難な場合には、主治医を含め家族と相談し、施設利用や入院の転機となっている。利用者や家族が継続入居を希望することが少ないが、現在は十分に支援出来る体制下になっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のスキルが上がっていく中で段階的に訓練を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同じく、職員のスキルが上がっていく中で段階的に計画している。地域には自主防災組織があり日頃からの付き合いがあるなか災害時の協力体制も強固になっている。	自治会内の自主防災組織力により、避難訓練時には、自治会長等の役員その他、両隣宅からも避難誘導と見守りの協力を得ることが出来ている。ハザードマップ上の危険性はなく、避難所も近隣に2カ所ある。管理者は、停電時の対応や備品の整備、日常的なミニ訓練の必要性を認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。職員の関わる姿勢や工夫しだいで利用者様の心身の健康は大きく変わりを理解している。	職員は、利用者に「さん」付で声がけをし、雑談等で会話が弾んだ時には、職歴に配慮した呼びかけをすることもある。また、特技を活かせる支援を行うことで、自尊心の保持に努め、日常的には羞恥心を伴う介護には、声がけや会話の工夫に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記同じく職員が関わる姿勢に注意し、利用者様が希望を表出できる環境、および焦らずに考えを組み立て決められる雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程で決まっているのはリハビリ体操の時間と食事や入浴。それ以外は、思い思いの時間をつくっていただき、職員は臨機応変な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに合わせて美容院に通える体制がある。起床後は鏡前に立って貰い、ゆっくり整容していただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日課になっている。多くの利用者様が食事作りに関わっている。役割を担う喜びに繋げている。	食事には職員も同席し、利用者には、食材の準備や、食後のテーブル拭きや食器拭き等を担っていただいている。事業所には、本部の栄養士が作成した献立を基本として、利用者の食べたい物を確認しながら、汁物を芋の子汁やハットに変更している。好まれる食事はチラン寿司で、誕生日には誕生者のリクエスト献立を全員で頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量や食材の刻みの工夫をしている。栄養バランスも1食あたり10品以上の食材を使用するよう努めている。水分量は食事、おやつ時以外でも自由に飲めるように専用のペットボトルを常時手元に準備させていただいている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後の歯磨きは全利用者が必要性を理解して取り組んでいただいている。歯科往診ができる体制にあり、職員もブラッシング技術等学んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者のトイレ頻度も把握できるようチェックしている。介助で尿パッドを常時交換する必要がある利用者でも、トイレで便器に座ってカんでもらう習慣は続けている。	入居後、排泄チェック表を活用しながらトイレ誘導することで、薄手の尿とりパット使用が可能となった利用者があった。日中は、それぞれ必要な介助を受けながら、全員がトイレを利用し排泄している。夜間、リハビリパンツとパットを併用し、睡眠を優先している利用者が3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	季節替わりの体調変化、便秘薬の効き目の違いを個々に把握している。全利用者がペットボトルを所持して頻回に水分補給をしており、昼食前にはリハビリ体操に取り組んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は職員体制の弱さから希望日、希望時の入浴は難しい。体制強化に努めている。	2年前までは、浴室は毎日入浴出来る様に準備していた。現在は、職員勤務表の中で、安心して介助出来る日にサービス提供をしており、週1回程度の入浴機会となっている。体調や気分がすぐれず入浴出来ない場合には、清拭や足浴を行っている。	利用者の楽しみと、清潔保持や血液循環による体調管理のため、最低でも週2回の入浴機会を提供出来る体制の構築を図りたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルや体調に合わせており、必要に応じて食事開始を遅らせたり、居室以外でも居眠りできる場所を勧めるなど工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	取り組んでいる。医師との相談のもと量や服薬時間の調整も必要性に応じておこない、効用時間や効果程度の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリ体操以外に画一のレクリエーションは設けず、個々に時間をつくられている。食事や洗濯などの役割を担ったり、趣味活動をマイペースで行なったりと各々が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は散歩や遠足を計画できる体制がある。知人や御家族様と出かけるケースもコロナ禍前は行なっている。	コロナ禍前には、近隣のコンビニに買物や家族と外出していた利用者もあったが、定期的な外出はかかりつけ医への受診と散髪くらいである。隣宅への回覧板回しは、職員と一緒に1人ずつ交代で出かけている。事業所西側の通りは、歩道が広く整備され、日中は車通りも少なく、散歩や買い物にも安心して出かけられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態に応じてではあるが、財布(お金)を所持する方もいらっしゃる。自尊心を損なわないよう留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。自尊心の維持に加え残存能力の維持にも繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に天窗があり、ホールには季節を感じられる装飾や生け花の展示を心がけている。床暖房は各居室やホールでも其々に温度コントロールができるようになっている。キッチンも開放型で香りで食事時間を感じていただけるような工夫をしている。	事業所玄関には、以前入居された利用者が描いた大きな油絵が数点飾られ、引き戸を開けると、採光良好で広くゆったりとしたホールがある。ホール中央の食堂の他に、談話コーナーが2カ所と和室が設けられ、和室からは履き替え不要で、洗濯物の干場に出れる。間もなくみづき飾りを準備する予定があり、季節の行事も楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々または数人のみで過ごせるスペースがあり大きな窓から外を眺めたり談話していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのカーテンやタンス以外は個々が自由に家具を配置できる状況である。	居室内には、整理タンスとカーテンが備付けられ、複数の利用者が家族写真や整理ケース、ハンガーラックを持ち込んでいる。また、以前には、亡くなった配偶者のミニ仏具を持ち込んだ利用者がいた。テレビを持ち込んでいる利用者は無く、日中は殆どホールで過ごしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		